



地域福祉活動者のための 学びのテーマ・ポイント集

令和2年3月

大阪市社会福祉研修・情報センター
(社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会)

はじめに

(1) 地域福祉活動が求められる背景

近年の地域福祉は、地域での「支え合い」や「助け合い」が大切であるとの考えから、地域住民を中心としたしくみづくりが重要視されています。このような背景には、まず、日本全体の人口の減少や高齢化率の上昇などの人口構造の変化があります。さらに、地域で生活する住民の抱える生活課題は多様化、深刻化、そして潜在化しています。このような状況において、これまでの社会福祉のしくみでは地域のなかの課題や個々の生活課題には対応できなくなりつつあります。そのため、行政が提供する福祉サービスと地域住民による地域福祉活動を積極的に融合させようというのが、昨今の地域福祉におけるしくみづくりの動きです。

国は現在、地域住民の「支え合い」の必要性を唱え、多様化する生活課題の解決に向けた方法を見出そうとしています。地域の中の住民同士の「つながり」は薄れているという実情があります。一方で、多くの地域では、住民同士の「支え合い」による、多様化する福祉課題や生活課題の解決に向けた取組みが積み重ねられてきた歴史があります。地域における「支え合い」や「助け合い」を基本にした福祉のしくみづくりといっても、そもそもの地域のなかの「つながり」や「支え合い」のありかたは、それぞれの地域ごとに異なります。そのため、各地域での「支え合い」や「助け合い」のしくみをもう一度確認したり、ない場合にはつくっていくことから始めなければなりません。その際に気をつけなければならないことは、すでに地域のなかにある「支え合い」や「助け合い」などの住民同士のつながりを、壊してしまうようなことがあってはならないということです。地域それぞれのこれまでの取り組みや地域の歴史に合わないしくみや、全国で画一的なしくみをつくろうとすることは、かえって地域のなかにあるつながりを壊してしまうことになりかねませんので、気をつける必要があります。

地域住民の「つながり」や「支え合い」のしくみをつくるためには、行政や社会福祉協議会（以下、「社協」という。）などの社会福祉の専門職による支援も必要ですが、一番の原動力となるのはやはり地域住民の持つ力です。画一的なしくみではなく、それぞれの地域特性や地域の実情に合ったしくみを構築するために、「地域の課題は地域で解決する」という観点から、地域福祉のしくみを地域住民と行政、社会福祉専門職等とが協働でつくりあげていくことが大切です。

地域福祉のしくみづくりという意味からも、地域住民が主体的に活動する「地域福祉活動」が注目されているのです。

(2)「地域福祉活動者のための学びのテーマ・ポイント集」の作成の目的について

誰もが安心して暮らせる地域共生社会に向けて、地域住民が主体的に活動する「地域福祉活動」が注目されていますが、地域においては、長年福祉活動に取り組む方が多い一方、新しく活動を始める人が少ないという状況も見られます。また、福祉課題に対する活動の展開にあたってさまざまな課題があり、地域活動者が効果的に学ぶ機会が求められています。

大阪市社会福祉研修・情報センターでは、地域福祉活動者が地域で福祉活動を展開するための一助として地域福祉活動者講座や地域福祉推進リーダー養成塾を開催してきましたが、このたび、地域福祉活動者や区社協等の地域福祉活動の支援者、研究者の方々にお集まりいただき、地域福祉活動者のための学びについての検討会を開催し、地域福祉活動の推進に向けた学びの場や内容に関する課題を検討し整理してきました。

そして、この検討内容をもとに、新しい活動者の地域福祉活動への参画・定着による活動者層の充実と、地域における福祉活動のさらなる展開が推進されることをめざして、区社協の職員と地域役員やボランティアの方たちが、学びの場などを一緒に考えていくときに、活用するものとして「地域福祉活動者のための学びのテーマ・ポイント集」（以下、「学びのテーマ・ポイント集」という。）を作成しました。

地域で、福祉活動に関わる人たちに、「何のために地域福祉活動を行うのか」をどのように伝えていけばよいか、どのような配慮をすれば誰もが参加しやすい運営ができるかなど、地域の方たち自ら考えていくことが、次の展開につながっていきます。

(3)構成と活用方法について

この「学びのテーマ・ポイント集」の構成は、目次で掲載しているように、前半に地域福祉活動をすすめていくために、どのような「学び」が求められるか「学びのテーマ」をピックアップし、それぞれの「学びのテーマ」について実践された事例を紹介しています。地域福祉活動における「学び」は多様ですので、事例は、講義形式の研修だけでなく、懇談、話し合い、協議の場なども含め、学びにつながる場を幅広く紹介しています。

後半は、具体的に「学びの場」を設定する際、地域の状況にあわせて、どのような方法を選べばよいか、どのような工夫が必要かについて説明し、その後、「学びのテーマ」ごとに「学び」の内容や「学びの場」を設定する際のポイントやヒントを記載しています。

地域福祉活動者の方が区社協職員と一緒に、地域で「学びの場」を考えていくときに、「学びのテーマ」や具体的な実践事例を参考としたい場合は、前半部分を参考としてください。より詳細にどのような内容にするか、どのようなことをポイントとして「学びの場」を展開していくかを考える場合は、後半を読み進めていただければと思います。

この「学びのテーマ・ポイント集」に記載していることや事例をヒントにして、区社協職員と地域福祉活動者の方々が一緒になって、自分たちの地域における「学びの場」を考え、つくり出していただけることを願っています。

「地域福祉活動者のための学びのテーマ・ポイント集」目次

はじめに

1 「学びのテーマ」全体像	1-2
2 学びの実践レポート	
①わいわいトーク(阿倍野区社協、晴明丘地域社協)	3
②自主点検会議(東成区社協、校下社協)	4
③平野地域声かけ見守り訓練 (平野地域ネットワーク委員会、平野区キャラバンメイト連絡会)	5
④地域活動協議会 実務者交流会「人材発掘編」 (住之江区まちづくりセンター、住之江区社協、住之江区役所)	6
⑤男のカフェ講座(旭区社協)	7
⑥子ども食堂における食物アレルギー勉強会 (住之江区役所、住之江区まちづくりセンター)	8
⑦地域のお宝再発見！(港区民生委員児童委員協議会、港区役所、港区社協)	9
⑧地域の見守りと専門職との協議の場 (住吉区社協、遠里小野地域ネットワーク委員会)	10
⑨災害時のママ・パパの心構えセミナー(北区社協、大淀東地域社協等)	11
3 学び方(場面)の種類、パターン	
(1)学びの多様性、柔軟性	12
(2)学びの種類	12-13
(3)設定する時の工夫	13
4 地域福祉活動者に学んでほしいこと	
A 社会福祉、地域福祉活動に関する基本理念	14-16
B 社会福祉制度・地域福祉活動の基礎知識	17-18
C 組織運営管理	19-22
D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり	23-25
E 多様な連携、協働	26-28
F 広報、情報発信の方法	29-30
G 災害に備えた取組み(防災)	31-32
5 新たに地域活動に参画する人を広げるために	
(1)なぜ新しい人の活動参画が大切なのか	33
(2)具体的なポイント	33-35
(3)新たな活動参画を促していくために	36-37
地域福祉活動者研修体系検討会委員名簿	38

1 「学びのテーマ」全体像

地域福祉活動における「学び」は多様ですが、地域福祉活動をすすめていくために、どのような学びが求められるかを検討会でピックアップしてみました。そして、この次に紹介する「学びの実践レポート」はどの「学びのテーマ」に関連するかを合わせてお知らせしています。

A 「社会福祉、地域福祉活動に関する基本理念」を学ぼう ⇒レポート①・②

- ・社会福祉の理念
- ・地域で地域福祉活動をする意味、地域福祉の理念
- ・ボランタリーな活動の意義、ボランティアとしての性質
- ・当事者の理解～認知症の理解、障がい者の自立支援、児童をとりまく環境と支援 ⇒レポート③



レポート②

レポート①



B 「社会福祉制度・地域福祉活動の基礎知識」を学ぼう

- ・社会福祉、地域福祉施策の動向
- ・地域の団体を知る ⇒レポート⑦

C 「組織運営・管理」を学ぼう

組織運営管理

- ・活動をフォローしてくれる制度
- ・財源、ファンドレイジング～助成金申請の方法
- ・実務～ 会計、機器の使い方など

人材育成、継続、関係づくり

- ・コミュニケーション技術、メンバーシップ、チームコーディネート、リーダーシップ
- ・話し合いの場づくり、合意形成の方法
- ・セルフマネジメント～生活の中でのやりくり
- ・メンタルヘルスマネジメント～ストレスマネジメント、モチベーションマネジメント
- ・次の担い手づくり ⇒レポート①・④・⑤・⑨

リスクマネジメント

- ・個人情報共有・保護
- ・リスクマネジメント～保険関係、コンプライアンス、クレーム対応 ⇒レポート⑥

レポート④



D 「地域課題の解決・地域福祉活動づくり」を学ぼう

- ・地域課題の見方 ⇒レポート①
- ・地域課題の解決に向けての実践、企画のしかた、手法 ⇒レポート①・②・④・⑦
- ・地域拠点での活動づくり ⇒レポート⑤



レポート⑤

F 「広報、情報発信の方法」を学ぼう

G 「防災の取組み」を学ぼう ⇒レポート⑨



レポート⑨

レポート⑧



E 「多様な連携、協働」を学ぼう

- ・地域の中の専門職の役割 ⇒レポート⑧
- ・ネットワークの構築～専門職との連携、企業とのつきあい方、学生とのつながり
組織内の横のつながりなど ⇒レポート①・⑦・⑨

以上は、地域福祉活動者に共通して求められる学びのテーマを取り上げていますが、赤色の文字部分は、新規活動者が、活動を始めた時に特に目を向けてほしい学びです。

2 学びの実践レポート

レポート1 わいわいトーク

阿倍野区社協と晴明丘地域による共催／開催時期：平成29～30年度

事例概要

阿倍野区では、地域住民が、自分たちの地域のことや暮らしの課題、必要な取組みについて話し合う場として「わいわいトーク」を開催し、平成28年度の阿倍野区地域福祉計画を策定しました。

その後、各地域での地域福祉計画の策定をめざし、地域別わいわいトークの開催を提案したところ、晴明丘地区社協の会長から「開催したい」という声があがったことがきっかけで、同地域で計4回のわいわいトークを開催。ここから新たに「男の集い」や「みんなの食堂」が生まれるなど、具体的な活動につながっています。

わいわいトークの開催と並行して、参加していない人にも広く知っていただくため、地域内に経過報告の回覧やポスターを掲出。わいわいトークに参加されていない子育て世代や、障がいのある人の意見も把握するため、それぞれが集まる場へ赴いてヒアリングを実施しました。また、地域内の小学校でも総合授業の一環として、わいわいトークと連動した企画を実施するなど、幅広く住民からの意見を集め、その声を共有することを試みました。

ポイント

- ・地域の強みや暮らしの困りごとについて、気軽な“おしゃべり”を通して気づき、共有する
- ・話し合いの場に参加していない（できない）住民にも声を届け、声を拾いに行く
- ・気づきや学びをその場だけで終わらせず、可視化し、必要な取組みの実行へとつなげる

関連項目

- A 社会福祉、地域福祉活動に関する基本理念（地域福祉活動をする意味）
- D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり
- C 組織管理運営（次の担い手づくり）
- E 多様な連携・協働



わいわいトークで話し合う様子



出てきた意見の共有



（左上）経過報告ポスター
（下）わいわいトークをまとめた晴明丘地域福祉行動計画の一部

レポート2 自主点検会議 (Self-Assessment Meeting)

主催：東成区社協、校下社協／開催時期：平成30年1月～(随時開催)

きっかけ

地域で福祉活動者（ボランティア）と話している時に、聞こえてくる“やらされ感”“押しつけられ感”。話をしていくうちに見えてくる活動目的の曖昧さ。加えて活動が長年続いていることで、活動があることが当たり前になり、地域の役員からの声かけも少なくなっている現状。これからも活動者が目的を持って、やりがいを感じ、楽しみながら活動が継続していけるような支援が必要になってきています。



地域福祉活動への思いを出し合います

事例概要

東成区内の小地域（小学校下）では、長年にわたり（長い活動では40年）、ふれあい型高齢者食事サービス活動等の地域福祉活動が実施されています。また、最近になってスタートした活動もあります。自主点検会議は、これらの地域福祉活動の活動状況を校下社協の役員や活動者（ボランティア）、地域包括支援センターや区社協、区役所の職員が集まり、振り返りを行い、みんなで活動の点検、確認をしていく会議です。この点検、確認の作業を通して、活動者が現状の成果や課題、今後の方針を共有し、活動の充実につなげることを目的としています。



参加者みんなで活動への思いを共有します

ポイント

- ・ 長年にわたって取り組んでいる活動の目的を再確認し、共有する機会をつくる
- ・ これからの活動方針を話し合い、共有する機会をつくる
- ・ 地域包括支援センター、区保健福祉センター、区社協職員も参加して課題を共有、解決を図る

参加者から

- ・ 「配食時に、喜んでいる声を聞くとしんどさを忘れ、頑張ろうという気持ちになる。最近は、生活にしんどさを感じている人が増えてきているように思う」
- ・ 「ふれあい喫茶の会場を別の場所で行うことで、参加できる方が増えて良かった」
- ・ 「見守り訪問後、振り返りを行い、心配な人がいなかったか情報共有して、専門職につなげるようにしている」
- ・ 「若い人にも活動に協力してもらえよう周知したい」



たくさんの思いは、これからの活動に活かします

関連項目

- A 社会福祉、地域福祉活動に関する基本理念（地域福祉活動やボランティア活動の意義）
- D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり（課題の共有、課題解決に向けた検討）

レポート3 平野地域声かけ見守り訓練

主催：平野地域ネットワーク委員会、平野区キャラバンメイト連絡会
開催時期：平成27年～現在 毎年1回の開催（事前講習会+訓練）



事例概要

平野地域ではこれまで、ふれあい員（地域住民同士のふれあいをお手伝いしている見守りボランティア）による見守り活動を継続して取り組んできました。

そのような中、ふれあい員が地域で徘徊している認知症の方に実際に声かけを行ったことがきっかけとなり、平成27年から声をかけあい安心して生活ができる地域をめざして、声かけ見守り訓練が実施されました。その後、毎年の恒例行事となっています。参加者は徘徊役と声かけ役に分かれ、決められた地域の範囲内を歩き回り、声かけ役が徘徊役に声をかけ、適切なサポートができるように訓練しています。

ポイント

- ・ 声かけ見守り訓練を実施にするにあたり、地域住民と専門職と一緒に検討する準備会を継続的に行う
- ・ 声かけ見守り訓練を行う前に事前講習会を実施し、もし自分が認知症になったらどの様なことが困るかなど、当事者の立場に立った認知症についての学びや、地域の実情、声をかける時の留意点などを学ぶ
- ・ 地域役員、区キャラバンメイト連絡会、認知症介護指導者、地域福祉活動コーディネーター、地域包括支援センター、区社協などが協働し、地域と関係の専門職と一緒に訓練を行う
- ・ 車イスを利用している人や、視覚障がい者など対象をひろげ実施

参加者の声

- ・ 声をかけられるご本人の気持ちをくみとる、考えることが大事だと知りました。
- ・ 訓練をして、声かけのタイミングが勉強になり、ためらわずに声かけできるようになりました。
- ・ 近所の方へのふだんの見守りの意識も高まりました！

関連項目

A 社会福祉、地域福祉活動に関する基本理念
（当事者の理解）

E 多様な連携、協働



事前研修で認知症の人が困っていることなどを学ぶ



訓練中の徘徊役（右奥）と付き添い役（右手前）



事前研修をふまえ穏やかな口調で声をかける参加者

レポート4 地域活動協議会 実務者交流会「人材発掘編」

主催：住之江区まちづくりセンター、住之江区社協、住之江区役所／開催時期：平成28年10～11月(夜間開催)

事例概要

住之江区全体で、地域の若い担い手（PTA・子ども会など）と、リーダー層（地域活動協議会会長など）が集まり、新しい担い手たちの参画について話し合う場を開催。

約20人が参加し、全3回のプログラムで開催し、自分たちの活動について「参画したいと考えている人からどう見えているか」「どんな仲間と一緒に活動していきたいか」をワークショップ形式で考え、最後にはどのように参画を促すか、という企画案をプレゼンテーションしました。

■プログラムの内容

- ①地域活動者の現状・求める人材像等について
- ②「受け皿（地域活動協議会）のあり方」について外から見てみると…
- ③ほしい人材を仲間にするプランニングについて

参加者の声

- ・「これをやらないといけない…となると関わりにくい。やりたいことや単発ならできるという人もいるのでは」
- ・「一人で参加するのは照れくさい。グループ意識が入りづらさを生んでいるかも」
- ・「何時に終わるかわからないのは関わりにくい。時間ごとに区切れれば参加しやすい人と思う」
- ・「一年間のスケジュールが見えたら、この部分ならできる、やってみたいが出てきやすいかも」

ポイント

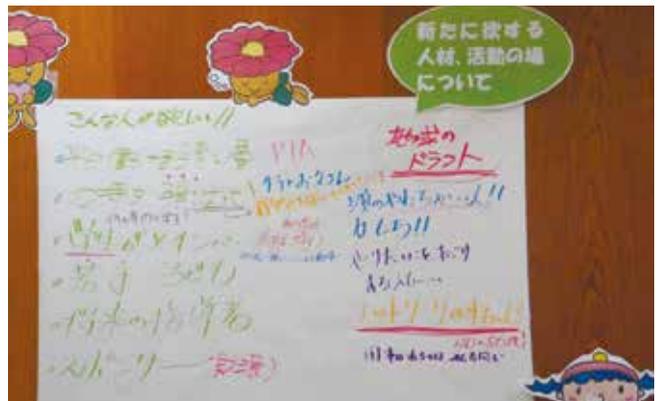
- ・ 区内のさまざまな地域同士、また同年代あるいは年代を超えて、学び合う機会をつくる
- ・ 自分たちの日々の活動を、一呼吸おいて、見つめ直す
- ・ 課題の共有だけで終わらず、どのように解決するかまでを話し合う

関連項目

- C 組織運営管理（次の担い手づくり）
- D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり



個々でこんな人がほしいを出し合う



出てきた意見のまとめ、共有



ほしい人材を仲間にするプランを作成

レポート5 男のカフェ講座

主催：旭区社協／開催時期：平成30年3月～

事例概要

旭区社協では地域の男性の居場所づくりに取り組んでおり、男性の学び場である「旭しょうぶ大学」を10年以上にわたり継続してきました。卒業したOB会の登録者は80人を超えており、その中から「自助活動だけでなく地域のボランティア活動をしていきたい」という声があがったことがきっかけの一つとなり、平成30年3月にカフェボランティア講座を開催。講座を窓口として、住み慣れた地域で何か役に立ちたいという人たちが集まり、「男のカフェ 火の鳥」が生まれました。



「男のカフェ講座」から生まれた「男のカフェ 火の鳥」の様子

地域にあるふれあい喫茶やサロンの参加者の多くは女性ということもあり、男性が参加するにはハードルが高い現状もあります。「男のカフェ 火の鳥」では、あえてメンバーもお客様も男性中心とすることで、男性にとって参加しやすく、居心地の良い居場所づくりになっています。ボランティアのみなさんは、当日の準備や運営、後片付けまですべて互いに声をかけあい活動されています。会場内の装飾やお客様に配付しているポイントカードへ押印するスタンプもすべてボランティアの手作り。それぞれの趣味や特技が活かせる場にもなっています。さらに現在は、地域の方から声をかけていただく機会も増え、地域行事に出店をしたり、各地域の会館でも実施をしたり、「出張カフェ」にも積極的に取り組んでいます。

初めて来られる方もあたたかく迎え入れ、常連さんには「最近どう？」と世間話に花を咲かせるにぎやかな雰囲気。「男のカフェ 火の鳥」。若い頃にフルタイムで働き地域とのつながりが薄いことも多いシニア男性にとって、カフェは人と出会い、つながる場となっています。

ポイント

- ・ 地域活動になじみのなかったシニア層の、居場所であるとともに活躍の場を創設
- ・ カフェでの出会いがきっかけとなって、新たに健康麻雀クラブや料理教室、写真の展示活動等、新たな地域活動へとつながっている
- ・ カフェ終了後には、毎回反省会を実施し、ボランティア同士で自由にアイデアや意見が述べられる雰囲気をつくるなどして、積極的に参加してもらえる工夫をしている

関連項目

- C 組織運営管理（次の担い手づくり）
- D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり

レポート6 子ども食堂における食物アレルギー勉強会

主催：住之江区役所 住之江区まちづくりセンター(住之江区社協)／開催時期：平成30年7月28日

事例概要

区内で開催している子ども食堂で参加者の中から食物アレルギーの課題が出され、ボランティアは食物アレルギーに対する知識を習得する必要があるということを確認。

同時期に区とまちづくりセンターが主催している企業交流会に参加している老人保健施設より、区役所に地域貢献に関する相談があり、地域で発生した上記の課題より、地域の活動者向けに食物アレルギーに関する勉強会の必要性について同施設に相談しました。同施設を運営する医療法人で検討いただき、小児科医師を講師として子ども食堂等を実施している地域のボランティアを対象に勉強会を開催することができました。会場も同施設の食堂をお借りし、講師からは食物アレルギーの基礎知識(症状、対処方法、食品管理など)について、お話いただきました。

近隣地域のボランティア約30名が集まり、食物アレルギーに関する知識を深めました。勉強会以降は活動で提供する食物に関する注意表示を行うなどの工夫を各地域で取り組まれています。



講師のお話を真剣に聞くボランティアの皆さん

ポイント

- ・発生した課題から次の予防策や対応を検討する機会をつくる
- ・ボランティア活動を運営していくにあたり、発生するリスクに関することについても学んでおく必要がある。そのことが予防策につながる
- ・課題対応や解決に向けた学びの場に、地域にある専門機関にも協力を呼びかける

関連項目

- C 組織運営管理 (リスクマネジメント)
- D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり
- E 多様な連携・協働



アレルギーに関する表示を行い工夫

レポート7 地域のお宝再発見!

主催：港区民生委員児童委員協議会、港区役所、港区社協／開催時期：令和元年9月13日(金)午後2時～

事例概要

著しい人口減少、少子高齢化が進む港区の状況から、地域の見守りの担い手である民生委員児童委員、ネットワーク委員、町会等の団体間の垣根を超えた連携が必要との考えから、港区民生委員児童委員協議会・港区地域ネットワーク委員会合同研修会として、見守り団体間の連携をめざして開催し、約200人が参加しました。

前半は、「地域のお宝見い～つけた～お宝って

なんだ!?～」と題しての講演。ご近所福祉クリエイターの酒井保さんからは、大小にかかわらず地域の方々が持つ様々なつながりは「地域の宝」であり、普段の地域生活を豊かにするとともに、災害などの非常時にも力を発揮する。また、くらしの中の何気ないあいさつや声かけ、ご近所同士の井戸端会議などが人と人とのつながりを再確認する機会となるのお話がありました。

後半は、「居場所」「見守り」「支え合い」をテーマに3つの報告を行いました。

- ①市岡地域の百歳体操⇒一つの地域で、老人憩の家（福社会館）、マンションの集会室、自営のふとん店の3カ所で開催されている、「百歳体操」の取組みについて
- ②港晴地域の地域見守りマッピング⇒町会、民生委員、ネットワーク委員、防災リーダーによるマッピングを通して、地域の見守り状況をみえる化し課題の共有について
- ③区社協の有償活動⇒有償活動だから可能となる活動の様子と、「男性の居場所」としての役割について

ポイント

- ・既存の見守り活動団体の連携した地域づくりが、災害時には共助として生きてくる。「あるもの磨き」の視点を考える機会とする
- ・食事サービスや百歳体操などの「居場所」。ゆうあい訪問や回覧板の手渡し、広報の配布時等の「見守り」。有償活動などの「支え合い」の取組み報告から、顔の見える関係こそが“地域の宝”であることの発見

参加者の声

- ・いろいろな人を巻き込んで支え合っていく必要があると感じた。(民生委員)
- ・してあげるだけでなく、一緒にする、役割をもってもらうことも大切との言葉が印象に残った。(ネットワーク委員)
- ・人は必要とされることが必要。
大変いい話だった。(町会)

関連項目

- B 社会福祉制度・地域福祉活動の基礎知識
(地域の団体を知る)
- D 地域課題の解決・地域福祉活動づくり
- E 多様な連携、協働



講師の酒井保さんの基調講演



港晴地域の地域見守りマッピングの報告

レポート8 地域の見守りと専門職との協議の場

主催：住吉区社協、遠里小野地域ネットワーク委員会／開催時期：毎月1回(第2火曜の夜)

きっかけ

遠里小野地域は住吉区の中でも高齢化率の高い地域です。4年前、災害時の要援護者への支援の取組みが住吉区で始まった時、どうせやるなら地域の「声かけを必要とする高齢者」も支援していこうと、ネットワーク委員会を立ち上げました。委員会のメンバーは、民生委員、女性部長、老人会、配食ボランティアで、総勢25名。このメンバーで声かけ見守り活動を始めました。



常駐委員会で地域の心配事を話し合う

事例概要

地域支援事務所に交代で常駐する者（8名）と他のメンバーがペアを組む、シフト表を毎月作成します。そのペアで、見守りリストをもとに、訪問します。リストは、町会長の協力のもと、毎年、新しく町会ごとにネットワーク委員会が作成します。この4年の内に近所に住む人たちからも、「気になる人」の情報や心配事・相談事などが、数多く寄せられるようになりました。

常駐委員は、負担軽減のため、8名で担当曜日を決めているため、情報の共有が必要になり、常駐委員会を毎月行い、出てきた問題について話し合うことにしました。その時、包括の方から、その会議に参加したいとの旨を伝えられ、会議には、常駐委員8名のほか、見守り相談室、地域包括支援センター、ランチ、CSW、区社協、区役所の専門職が加わることになりました。ここで話し合ったことは、議事録で他のメンバーがいつでも見ることができ、年4～5回開催しているネットワーク委員会でも共有しています。

ポイント

- ・ 毎月決まった日に行うことにより、情報の整理ができる。すなわち、受けたいアドバイスや知りたい情報を前もって、心づもりしておく
- ・ 情報を共有し、ともに解決しようとするので、連帯感が生まれる。それは、地域ボランティア集団と専門職間に、お互いへの信頼と安心のあるつながりをつくり出す



見守り訪問の様子

参加者の声

- ・ それぞれの専門職が何をしてくれるところかよくわかり、我々の力量アップにつながる。
- ・ 会議において、すぐ翌日解決に向けて動き出すので、やりがいがある。
- ・ 日頃のボランティア活動や会議が活かされていると実感できる。
- ・ 応援団が後ろにいる感じで安心。

関連項目

E 多様な連携・協働

レポート9 災害時ママ・パパの心構えセミナー

主催：生活協同組合おおさかパルコープ大阪北地域活動委員会、北区社協
協力：大淀東地域社協、滝川地域社協、大阪府助産師会
開催時期：平成30年7月、11月、平成31年2月 午前10時～12時30分

事例概要

地域の防災訓練などに参加が難しい妊婦さんや赤ちゃん連れのママ・パパを対象に、災害時だけでなく、平常時からのコミュニティ形成のため、「災害時、自分自身と子どもたちの命を守るためにできることは何かを一緒に考える」セミナーを開催しました。

1回目は大淀東地域で、2回目は滝川地域で、3回目は北区民センターで実施し、参加者は、計64名でした。

第1部では、命を守る方法や基本的な災害情報、全国の被災地支援で体験した女性たちの声を伝え、災害時の具体的なアドバイスを行いました。第2部では、ワークショップを実施し、たくさんの防災備品から各自、優先順位を考えてバッグに詰めてみる体験をし、参加者相互で自分が選んだ備品の理由など話し合い、思いを共有しました。



ワークショップの様子

ポイント

- ・ 防災の視点から地域情報を知ることを通じて、子育て世代の方たちが地域でのつながりをつくる
- ・ 平時の生活のなかで、災害に対して備える力を身につける
- ・ 子育て世代の方たちが、当事者の課題をとおして、地域の活動に参加するきっかけづくり

参加者の声

- ・ 妊婦さんのため、母のための防災というのがよかった。
- ・ 先輩ママさんのリアルな声を聞くことができて良かったです。
- ・ 具体的に準備用品などを選ぶワークショップはよかった。
- ・ 被災地に行かれた方のお話がとてもためになりました。

関連項目

- C 組織運営管理（次の担い手づくり）
- E 多様な連携・協働
- G 防災の取組み



グループディスカッションの様子